

新しい「ゆたかさ」前進プログラムの政策評価について

I 評価概要

令和元年に策定した宮崎県総合計画「未来みやざき創造プラン（アクションプラン）」に掲げる重点施策である「新しい「ゆたかさ」前進プログラム（以下「プログラム」という。）」について、毎年度、政策の進捗状況等の評価を行う。

今回は、計画初年度（令和元年度）の取組に係る評価を実施する。

1 評価対象

新しい「ゆたかさ」前進プログラム

プログラム	重点項目
1 人口問題対応プログラム	1-1 社会減の抑制と移住・U I J ターンの促進 1-2 産学金労官言の連携による地域や産業を支える人財の育成・確保 1-3 地域の暮らしの確保や中山間地域の振興 1-4 本県の未来を担う子どもたちの育成 1-5 合計特殊出生率の向上に向けた環境づくり
2 産業成長・経済活性化プログラム	2-1 本県経済をけん引する成長産業の育成と新産業の創出 2-2 本県の基幹産業である農林水産業の成長産業化 2-3 地域経済を支える企業・産業の育成 2-4 資源・エネルギーの循環促進と低炭素社会の実現に向けた取組 2-5 交通・物流ネットワークの整備と効率化の推進
3 観光・スポーツ・文化振興プログラム	3-1 魅力ある観光地づくりと誘客強化 3-2 「スポーツランドみやざき」の構築と県民のスポーツ活動・交流の促進 3-3 文化資源を生かした地域活性化や県民の文化活動・交流の促進
4 生涯健康・活躍社会プログラム	4-1 地域における福祉・医療の充実と健康寿命の延伸 4-2 生きる喜びを実感し、安心して暮らせる地域づくり 4-3 一人ひとりが活躍できる多様性を持った社会づくり
5 危機管理強化プログラム	5-1 ソフト・ハード両面からの防災・減災対策 5-2 緊急輸送や救急医療の観点による社会資本整備と適切な維持管理 5-3 人への感染症に対する感染予防・流行対策強化 5-4 家畜伝染病に対する防疫体制の強化

2 スケジュール等

(1) 内部評価（重点項目：20）

県において、「重点項目」（20項目）ごとに、「目安値に対する達成状況」の評価を行う。

(2) 外部評価（プログラム：5）

ア 審議会① 6月下旬～7月上旬（書面審議）
 ・知事からの諮問（書面）
 ・内部評価結果の提示
 ・各委員からのプログラムごとの評価の回答（FAX）
 （7月13日（月）まで）

今回依頼

イ 審議会②（8月4日（火）予定）

- ・プログラムごとの評価の決定
- ・答申書（案）についての審議

ウ 知事への答申（8月19日（水）予定）

II 評価方法

1 内部評価の判断基準

各指標の目安値に対する達成度を点数化した上で、重点項目を構成する各指標の評価の平均点を算出し評価する。

なお、今回から、重点指標に重みをつけた評価方法に変更する。

内部評価（例）

〔5 危機管理強化プログラム
 5-2 緊急輸送や救急医療の観点による社会資本整備と適正な維持管理〕

	指標	基準値 (策定時)	R1 目安値	R1 実績値	R4 目標値	達成度 (%)	点数	平均点	内部 評価
重点 指標	緊急輸送道路の防災対策進捗率(%)	58.6 (H30)	59.5	59.0	63.0	44	1	1.00	c 1.33
取組 指標	緊急輸送道路の改良率(%)	83.6 (H30)	84.2	83.8	85.0	33	1	1.66	
	県内重要港湾における耐震強化岸壁 整備箇所数(箇所)	3 (H30)	4	4	4	100	3		
	アセットマネジメントによる計画に基づ き補修を講ずべき橋梁の対策率(%)	56.8 (H30)	58.0	57.0	67.0	16	1		

※例ですので、実際の数値とは異なります。

P3①

p3②

<指標の種類>

重点指標：プログラム全体の成果や達成度を見るための指標

取組指標：進行管理のため、重点指標に加え、重点項目ごとに設けた指標

<値について>

基準値：その指標の基準となる値（計画策定時の数値）

目安値：令和4年度の目標値達成に向け、各年度の進捗状況を把握する比較対象として設定している数値（その年度に達成を目指す数値）

実績値：その指標の当該年度の実績値

目標値：令和4年度の目標値

①指標ごとの評価（指標達成度の評価）

各指標の達成度を算定し、点数化。

<指標達成度の主な算出方法> ※指標の性質によっては、下記以外の方法で算出

$$\text{指標達成度 (\%)} = \frac{\text{R1 実績値} - \text{基準値}}{\text{R1 目安値} - \text{基準値}} \times 100$$

指標達成度	100%以上	3点
	50%以上 100%未満	2点
	0%以上 50%未満	1点
	0%未満	0点

(例) 緊急輸送道路の防災対策進捗率の場合

(例ですので実際の数値とは異なります)

$$\frac{59.0(\text{R1 実績値}) - 58.6(\text{基準値})}{59.5(\text{R1 目安値}) - 58.6(\text{基準値})} \times 100 \div 44\% \rightarrow 1\text{点}$$

②重点項目ごとの評価（内部評価の結果）

重点項目を構成する各指標の平均点を算出し、評価。

重点項目ごとの平均点	2.25 以上	a
	1.50 以上 2.25 未満	b
	0.75 以上 1.50 未満	c
	0.75 未満	d

なお、今回から重点指標に重みをつけた評価とするため、重点指標の平均点と取組指標の平均点をそれぞれ算出し、その2つの値の平均点を重点項目の評価基礎となる平均点とする。

(例)

	指標	達成度 (%)	点数	従来の算定		今回からの算定	
				平均点	内部評価	平均点	内部評価
重点指標	緊急輸送道路の防災対策進捗率 (%)	44	1	単純平均 1.50	b	(i)重点指標 平均 1.00	c 1.33 (i)(ii)の 平均
取組指標	緊急輸送道路の改良率 (%)	33	1				
	県内重要港湾における耐震強化岸壁整備箇所数(箇所)	100	3			(ii)取組指標 平均 1.66	
	アセットマネジメントによる計画に基づき補修を講ずべき橋梁の対策率 (%)	16	1				

- ・従来の算定は、重点指標と取組指標の別なく平均点を算出。
- ・今回からの算定は、重点項目の評価基礎となる平均点を、重点指標の評価（平均点）と取組指標の評価（平均点）が50%ずつ占めるよう算出。

※重点項目に重点指標が含まれない場合は、取組指標の平均点があるまま評価基礎となる。

2 外部評価の判断基準

内部評価を参考に、社会情勢による影響等も勘案し、5の「プログラム」ごとに総合的な評価を行う。

なお、具体的な判断基準は、以下のとおりである。

段階	判断基準
A	成果が出ている。
B	一定の成果が出ている。
C	策定時より改善しているが、一部に成果が上がっていない項目がある。
D	成果があまり上がっていない。

※ 上記の評価判断を行うにあたっての成果の把握

各プログラムの重点項目ごとに設定している「重点指標」及び「取組指標」の達成状況や、各プログラムの取組事項ごとに整理している「主な取組内容」等により把握。